

葉山だからできる豊かな学びにむかって

『葉山町教育総合プラン』解説(4)

長柄小学校「戦争体験を聞く会」の取り組みから

長柄小学校では「地域のお年寄りの戦中・戦後体験を聞き、当時の暮らしや人々の思いなどを知る。」ことをねらいとして、七年ほど前から「戦争体験を聞く会」を続けてきています。昨年度も地域の老人会の方々を中心に、約二〇名の「語り部」をお招きし、六年生に貴重な体験をお話いただきました。真剣に耳を傾けていた子どもたちが深い感銘を受けていることを、感想文からも推し量ることができます。

この活動は葉山らしい学習・教育環境を充実するための指針となる「葉山町教育総合プラン」が策定される以前から継続されているわけですが、まさに同プランの基本理念Ⅱ「心豊かに共生できる人間をめざして」3地域・世代間交流を促進しよう」に先駆けて具現化している取り組みと言えます。

感性豊かな小・中学校時代に地域の語り部から直に話を聞くという体験は「知恵・経験をつなぐアクション」という視点からも貴重な学習です。今後とも、このような地域と連携した学習機会の充実を目指してまいります。

「戦争体験のお話を聞いて」

(感想抜粋)

◆今年はずいぶん戦争六〇年だ。私は三人の人にお話を聞いた。Kさんは小学校二年生から大砲に火薬をつめたり戦車の修理をしたりしていて、横浜に行ったとき焼夷弾が降ってきて、周りは火の海で空は黒かったと聞いてとても怖かった。(中略)やっぱり戦争がなければこんなに苦労しなかっただろうと思うと心が痛かった。

◆今日のお話で、この時代に生きていた人がどれだけ苦労をしていただだけ必死だったかが分かりました。本当は遠い昔の恐ろしい話など思い出したくもないのに、私たちのためにお年寄りの方はいろいろなことを話してくださいました。私が大人になっても、次の世代の人たちに戦争の恐ろしさを語っていききたいと思います。

募集

戦争体験―手記・写真・図版他

広報「はやま」6月号の再掲・詳細
「小中学生用平和教育副教材作成をめざして」

次世代に「戦争体験語り継ぎ」を

「葉山町教育総合プラン」の中の「世代を超えた学習活動を盛んにすること」で、地域に生きる人同士が知り合い、認め合う体験を重ねていくことは、共に生きることの楽しさが強く実感できるものと期待される」ことの具現化を目指して、この度、町民の皆様にご提供いただく資料をもとに、小中学生を対象とした平和教育副教材を作成します。

真、図版、その他

◎提出・問合せ先

・葉山町教育研究所

電話&FAX 八七八・七七二七

住所 〒240・0115

上山口一五八

・担当 倉内・早川

・学校教育課でも受け付けます

◎締切り 七月三十一日まで

◎その他

・原則として郵送または持参でお願いいたします。無理な場合はご連絡ください。

・原稿は返却できませんので、コピーをお願いいたします。

・教材用のため、表現の変更をこちらにて行う場合があります。

・写真、図版、その他については利用後返却いたします。

・著作権は全て町教育委員会のものといたします。

・連絡先、連絡方法を明記ください。

・教材用資料として分量に限りがありますが、ご提供いただいても、掲載できない場合がありますこと、あらかじめご了承ください。

応募方法

◎募集するもの
戦争体験を中心とした手記

(原稿用紙2枚程度)

イ その当時を知ることのできる写

▼共感・感動が広がった佐々木正美先生の講演 ▲

「子どもへのまなざし」

葉山町教育研究所公開講座から

去る二月二三日、南郷中学校視聴覚室において葉山町教育研究所公開講座が開催されました。

講師は「子どもへのまなざし」等の育児書や自閉症の研究で有名な、川崎医療福祉大学教授の佐々木正美先生。当日は一四四名の参加者が集まり、視聴覚室は熱気に包まれました。

■「お母さんは優しいだけで良いのです」

講演の冒頭、佐々木先生は日本青年研究所が高校生を対象に行った調査結果を引用し「親を尊敬することができず、一方では自分自身をだめな人間



と思う。」等の傾向から、「豊かなはずの子どもの心も壊れているのではないか。」と指摘し、次のような話で講演を締めくくられました。

「家庭の中にくつろぎを与えてください。父性には規則・規律・責任なども包み込む力です。幼少期に母性豊かに育てられていない子どもに、後から父性的な厳しさを与えても心に入っていきません。ですから、お母さんは優しいだけでよいのです。最後に宿題を出します。今日から一週間、子どもを一切叱らないでみてください。子どもは優しさの中で変わって行くに違いありません。」

◆参加者の感想

◎早く家へ戻り、子どもを抱きしめたくなりました。このことを忘れずに子どもを信じていきたいです。ありがとうございました。

◎私は厳しく、口うるさく、母性ではなく父性で子どもに接してきました。たなあと反省しながらお話を伺いました。今日からは優しく、依存や反抗を受け入れてあげようと思いました。

かながわんづくりフォーラム



～神奈川県教育委員会・教育ビジョンの策定をめざして～

海洋冒険家 荒木汰久治さんによる

『海人丸 移動環境教室』

～於：葉山一色海岸～

5月3日の五月晴れの一色海岸で、「学ぶ楽しさやわかる喜びが実感できる学校づくり」の議論を深めるため、「海人丸にふれてみよう、乗ってみよう！沖から陸を見てみよう！」という体験プログラムが開催されました。47名の小学生が参加し、海や自然と向きあう体験を通して、学ぶことや生きる力の意味などを、改めて考えました。

お詫び

いそぎく第二二二一号の「スクールデジタルコンテスト」優秀賞の紹介の中でお名前の誤りがありました。次のように訂正させていただきます。

誤 鈴木 大輝さん
正 鈴木 大翔さん

ご関係者の方にご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。

神奈川県教育委員会では、次代を担う子どもたちが、健やかにたくましく成長できるように、人づくりを柱とした教育ビジョンづくりに取り組んでいます。「未来を拓く・創る・生きる人間力あふれるかながわの人づくり」を基本理念に、様々なワークシヨップを設定し、県民の皆さんとの教育論議を進めています。